西会津町
公式Facebook

西会津町
LINE公式アカウント

アタラシイ

この先も長く、
豊かな暮らしをつないでいけるように。
「西会津町総合計画」を基に、
協働によるまちづくりや各種施策を
打ち出しています。
西会津町をつくるのは、
この町で暮らす町民一人ひとり。
さまざまなプレーヤーが町を支え、
町の勢いを創り出しています。

日本の田舎、西会津町。
Traditional countryside in Japan, NISHI-AIZU.

西会津町　町勢要覧

発行元 ／ 西会津町 企画情報課
〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢字下小屋上乙 3308 番地　TEL：0241-45-4536　FAX：0241-45-4199

2019→2025

西会津町総合計画 まちづくりの方向性

健やかな人をともに育むまちづくり

地域ぐるみで子育てに取り組み、安心して子どもを産み育てられる環境の創出を追求するとともに、子ども達に新しい学びを通して、未来を生き抜く力を育成していきます。町民みんなが生涯を通して学び続け、日常生活のなかでスポーツや芸術文化に親しむ機会を持ち、健やかな心と体を育む町を目指します。

温故創新　地産地笑のまちづくり

先人が紡ぎ守ってきた歴史や伝統、技、生活の営み、豊かな自然など「ココニアルモノ」を大切にしながら、新たな考え方や手法を融合させ「フルクテ　アタラシイ」価値を創出していきます。こうして生まれた新しい価値や技術を、農林業や商工業、観光などに積極的に取り入れながら、地場産業の振興と後継者育成、起業家育成を進め、ヒト・モノ・カネがうまく循環する、活気に満ちた笑顔の絶えない町を目指します。

いきいき健康こころつながるまちづくり

町民みんなが自分の健康は自分で守る意識のもと、町民と行政が一丸となって健康づくりを実践することにより健康寿命を延伸し、心身ともに健やかに安心して暮らせるまちづくりを進めます。地域の支え合いのなかで、一人ひとりが、その人らしく生きがいを持って充実した生活を送ることができる、老いて幸せな町を目指します。

誰もがここちよく暮らせるまちづくり

町民が一体となって雪を克服し、自然と共生しながら、災害に強い安全なまちづくりを進めます。ICTの活用や交通体系などの整備により、生涯にわたり快適で便利な暮らしができる「ずっと住み続けたい町」を目指します。

町の計画
はこちらから

令和元年度からスタートした新しいまちづくりの指針西会津町総合計画（第4次）。これは、西会津町のまちづくりの最も基本となる最上位計画に位置づけられます。町が目指す7年後の将来像を掲げ、長期的なまちづくりの方向性を明らかにし、この総合計画に基づいてまちづくりを行っていきます。

こうなったらいいな！西会津　町の将来像

笑顔つながり、夢ふくらむまち

～ ずーっと、西会津 ～

町民が健康で安全安心に暮らし（=笑顔）、家族や地域の支え合いのなかで、
将来を担う子ども達がのびのびと成長する（=つながり）町になっています。
町民一人ひとりが夢や希望を持ち、その実現に向けて挑戦し、地域の資源を活かしながら、
新たな価値をみんなで創造する活気ある（=夢ふくらむ）町を目指します。
先人が築いてきた歴史文化を誇りに思い、豊かな自然を大切にしながら、
「ずっと、ここに住み続けたい」と思えるまちを次の世代に引き継いでいきます（=ずーっと、西会津）。

町長あいさつ

西会津町は福島県の西北部に位置し、古くから会津の西の玄関口と言われ、越後街道の宿場町として栄えてきました。町の中央を阿賀川が流れ、万年雪を頂く飯豊連峰が望めるなど、四季を彩る豊かな自然環境のほか、大山祇神社や鳥追観音如法寺、縄文遺跡などの先史遺跡があり、「会津の霊地」信仰の里としても古い歴史があります。

このような特色を持つ本町では、令和元年度に西会津町総合計画（第4次）を策定し、町の将来像「笑顔つながり夢ふくらむまち～ずーっと、西会津～」の実現に向け、4つのまちづくりの方向性を軸とした各種施策を積極的に展開しています。人口減少、少子高齢化社会に加え、最近では新型コロナウイルス感染症の世界的流行など、本町を取り巻く状況は厳しさを増す中、令和3年3月には西会津町デジタル戦略を策定し、日々進化するデジタル技術を有効に活用して、地域課題の解決や行政サービスの向上、移住定住の促進など、あらゆる分野でデジタル変革に取り組み、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

本要覧は、受け継がれてきた歴史や文化、豊かな自然と、新たな価値を融合しこれからの西会津を築いていく姿をまとめたものです。皆様に西会津町をより深くご理解いただくとともに、更なる町政発展にお力添えいただければ幸いです。

西会津町長　薄 友喜

温故創新
地産地笑のまちづくり

空き家を活用して、夢だった鞄工房をオープン。

2020年に千葉県から西会津町へ移住し、「やまあみ鞄製作所」を運営している鞄職人の片岡美菜さん。地域の素材や技術を活用した鞄・小物づくり、工房運営などを行っています。なぜこの町へ移住し、またどんな取り組みを展開しているのか。移住者の声をお届けします。

理想にフィットした場所だった。

鞄職人として独立したい。その夢を、西会津町で実現できました。この町に来るまでに、全国各地を見て回っていたんです。鞄工房を立ち上げるなら、自然豊かな田舎がいい。そうやって拠点を探していたときに、この町に出会いました。西会津町へ移住を決めたのには、いくつか理由があります。まずは、雄大な自然があること。ここは見渡すかぎり山々が広がっていて、いつ見ても「きれいだなあ」と感動しています。次に、ふるくから受け継がれてきた手仕事や文化が今も残っていること。例えば、ヒロロという植物を使って縄ないをしたり、草木編みという手法で小物を編んだり、縄文文化を身近に感じられたり。昔ながらの暮らしの知恵が、今もこの町には残っているんです。また、「この町でこんなことをしたい!」という意思を持つ若者が集まっているのも、魅力に感じました。

町の資源を活かしたものづくりを。

2020年8月に西会津町に移住し、空き家を改修して「やまあみ鞄製作所」をオープンしました。鞄工房の立ち上げにあたって「起業型地域おこし協力隊」の制度を利用。経済面も生活面もサポートしてもらえる環境が整っているため、自分のやりたいことにとことん励むことができます。今は特に、西会津町ならではの素材を集めたり、縄ないや草木編みの技術を学んだりと、この町の資源を活かしたものづくりに取り組んでいるところ。鳥獣害対策の観点から捕獲されたシカやイノシシなどの皮、町内の集落でつくられている「出ヶ原和紙」、地域の人から譲ってもらった着物や木綿などの古布を使い、商品の企画や試作に打ち込んでいます。また、小物づくりワークショップを開いたり、工房の設備を町内の皆さんに貸し出したりと、交流も積極的に行っています。「美菜さん野菜いる?」って、お野菜を持って工房を訪ねてくれたり、活動を応援してくださる方々もいて、とても居心地がいいんです。西会津町は田舎でありながら、人の行き交いや新しいことに次々にチャレンジする文化が活発な場所。鞄工房の運営も、暮らしの面でも、この町の未来にわくわくしています。

鞄職人 片岡美菜さん

健やかな人を
ともに育むまちづくり

子どもたちの豊かな未来、町の可能性を育む「ICT教育」。

1人1台デジタル端末を配布したり、ケーブルテレビ網を活かしたオンライン教育を展開したりと、ICT教育を推進している西会津町。西会津町教育委員会の教育長江添信城氏にこの町の教育の特徴や取り組み、展望など語っていただきました。

多様なネットワークを活かす。

わたしたちが目指しているのは、子どもたちの「非認知能力」の向上です。「非認知能力」とは、学力テストなどで数値化されない「子どもたちの人生や将来を豊かにする力」のこと。そこで西会津町教育委員会では、「心豊かに健やかでやり抜く力を育む共育」を基本理念に掲げ、多角的な教育を展開しています。特に私が重要視しているのは「不易と流行」です。ここで言う「不易」とは、西会津の歴史や文化、自然のこと。変わることのない西会津町の資源を活かした体験型教育により、子どもたちの「非認知能力」の向上や、文化の継承を図ります。次に「流行」とは、時代の先をゆく学びのこと。具体的には「産・官・学・民」が連携した教育を進めています。例えば、IT企業やものづくり企業と連携し、プログラミング教室や3Dプリンターを使ったものづくり、一人ひとりの理解度や習熟度にあわせた「個別最適」な教育ができるよう新たに学習アプリを導入したり。既存の教育の枠組みにとらわれない「令和のスタンダード」な教育に踏み出しています。

江添信城 教育長

デジタルで加速する個別最適な学び。

西会津町の最大の強みは、ケーブルテレビが普及しており、ほぼ全ての家庭でインターネットに接続できる環境が整っていること。ICTの基盤が整備されているからこそ、デジタル技術を活用したほかに類をみない事例が生まれています。例えば、コロナ禍で小・中学校が全国一斉休業になった際には、ケーブルテレビを利用した一方向型のオンライン授業を実施。先駆けて1人1台iPadの整備が完了した小学校高学年には、Web会議システム「Zoom」を活用した双方向型のオンライン授業を行いました。現在は小学校ではiPadを、中学校ではWindows端末を全生徒に配布。デジタル端末を教材に、学習ツールとして使用することで、生徒一人ひとりの学習状況が把握できるうえに、その生徒の能動的で多様な学びを後押ししています。

このように、西会津町では中山間地域の豊かな自然を学びの場として活かしつつ、充実したICTの教育環境を整えています。今後は子育て世代の移住促進も視野に入れながら、「西会津町で子育てしたい」と思えるまちづくりに力を入れていきます。

誰もがここちよく暮らせるまちづくり

「あったらいいな」「やりたいな」を、実現しやすいまちへ。

子どもから高齢者まで、町民みんなが毎日をより快適に過ごし、西会津町での暮らしを主体的に楽しめるように。その基盤として、西会津町が注力しているインフラ整備を中心に、町の特徴的な取り組みをご紹介します。

もっと便利、もっと早く。AIオンデマンドバス

西会津町では、生活の足を確保するために町民バスを運行しています。中でも、デマンドバスは町内全域を運行区域とし、これまで電話による予約だけでしたが、専用アプリの導入によりスマホなどからも予約できるようになりました。アプリでの予約は簡単なうえ、バスの現在地や到着予定時刻を見ることができるなど、何時にバス停で待っていればいいのか一目瞭然です。さらに、バーチャルバス停(現地に標柱のないバス停)を新たに設置し、町内に300箇所以上の停留所を置くことでバス停までの移動負担を軽減。また、AI(人工知能)がバスの運行ルートやダイヤを自動作成するため、より効率的な配車や運行が可能になります。2021年11月から実証運行を開始し、2022年4月から本格運行に踏み出します。

町をつなぐ情報基盤 ケーブルテレビ

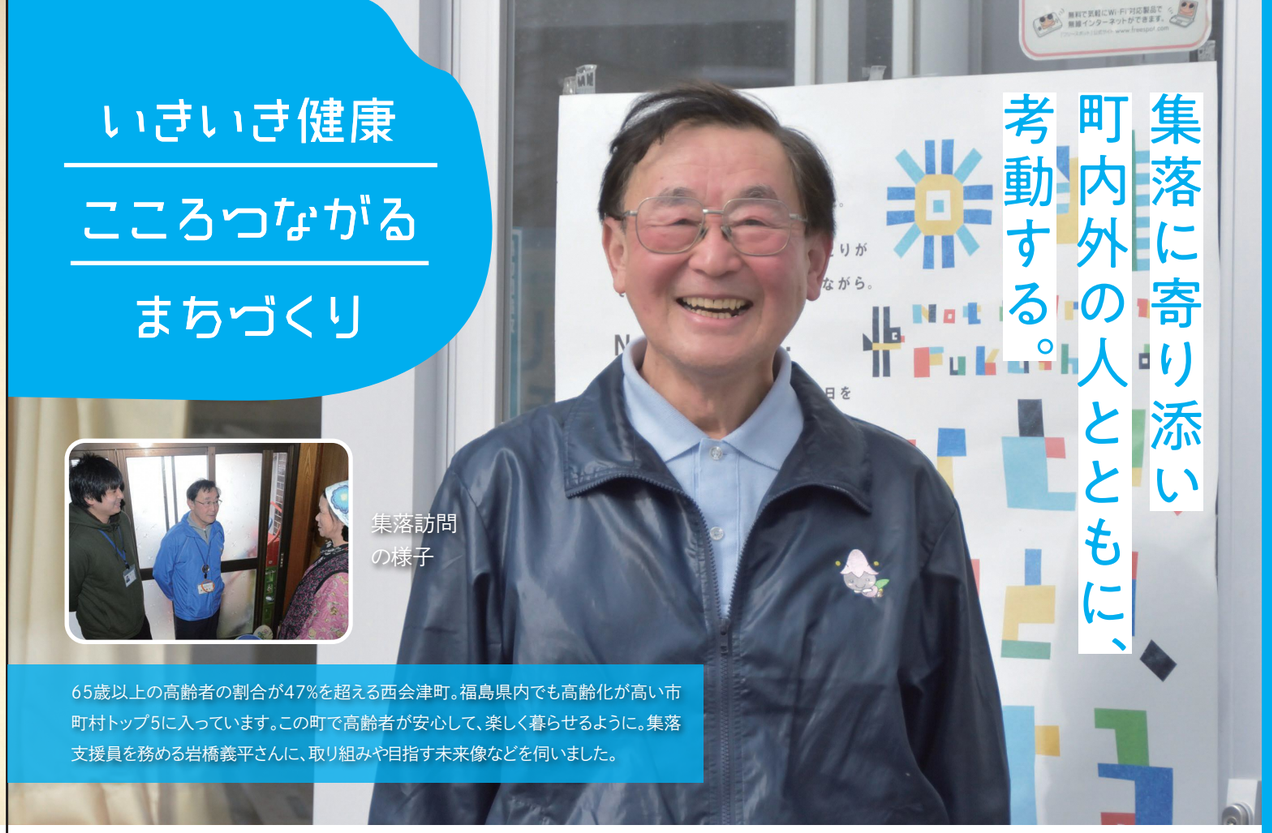
西会津町では高齢者の健康管理を目的として、平成9年2月に福島県内で初めてケーブルテレビ局を開局。以来、県内に先駆けてICTを活用したまちづくりに取り組んできました。平成15年12月にはインターネットサービスを開始、平成20年から平成23年には伝送路の光ファイバー化を行い、現在は町内全域に超高速大容量のインターネット環境が整備されています。新型コロナウイルスが蔓延し、西会津小学校・中学校が休業となった際には、ケーブルテレビを通してオンライン授業が実施されるなど、町民の暮らしを支える情報基盤として活用されています。

町民の想いをかたちに にぎわい番所「ぷらっと」

野沢まちなかにある空き店舗・民家を利活用し、令和3年度にリノベーション整備した「にぎわい番所ぷらっと」。テレワークスペースやキッチンスペース、和室などがあり、さまざまな用途で利用可能です。これまでに、町民による会議やイベントなどが行われており、町民主体のにぎわいづくりを目指しています。

いきいき健康こころつながるまちづくり

集落に寄り添い町内外の人とともに、考動する。



集落訪問の様子

65歳以上の高齢者の割合が47%を超える西会津町。福島県内でも高齢化が高い市町村トップ5に入っています。この町で高齢者が安心して、楽しく暮らせるように。集落支援員を務める岩橋義平さんに、取り組みや目指す未来像などを伺いました。

その人の想いを尊重した支援を。

町内でも特に高齢化が加速している「奥川」という地域の集落支援を行っています。活動の主な内容は、高齢者の見守り。家を一軒一軒訪ねて回り、暮らしに困りごとがないか、健康に支障がないかを聞きながら、必要な場合は公的機関と連携して支援にあたっています。私が集落支援員を務めてから10年経ちますが、集落の状況も、支援のあり方も大きく変わりました。就任した当初は、集落の住民を主役としたイベントの企画運営など「集落の活性化」が大きなテーマでした。しかし、75歳以上の後期高齢者が集落人口の80パーセントを占めるようになった今、「集落の看取り」もはずせないテーマとなっています。特に冬場は、多いときで2メートルを超える積雪があり、高齢者にとっては安心で快適な住環境とは言い難いのが実状です。そうした背景から、身体が動くうちに集落を離れる高齢者もいます。その一方で、集落に住み続けたいという高齢者もいます。どの選択肢をとるにしても、その人の想いを尊重し、安心して「ここで暮らしてよかった」と思ってもらえるように寄り添いながら支える。集落支援のあり方に正解はありませんが、ここに暮らす一人ひとりと向き合いながら、その人に合った支援を心がけています。

多様な人と見出す、集落の可能性。

集落に住む人は減っているものの、集落に関わってくれる人は年々増え続けています。いわゆる、交流人口・関係人口です。近年は特に、県内外の大学との連携が活発です。例えば、ゼミのフィールドワークの活動地として大学生を受け入れたり、遊休農地を活用した事業の立ち上げを計画したり、アート系の大学に通う学生と補助金制度を利用してアートプロジェクトを展開したり。10年前は想像もしていなかった多様な人とのつながりが、県内外に広がっています。そうした「若いチカラ」や「外の視点」を活かした集落支援は、集落を訪れた人にとって新しい気づきや学びとなり、集落で暮らしている高齢者にとっても刺激になる。これまでの集落にはなかった勢いが新しい人を呼び、その人たちがまた新しい人を呼んできてくれる好循環が生まれているんです。集落の人口は減り続けていく。でも、ここに関わってくれる人たちが増えれば、別の形で集落を発展させていけるかもしれない。その可能性に私自身がわくわくしながら、町内外の人とともに集落プロジェクトを起こしていきたいです。

西会津まるわかりMAP

福島県会津地方、新潟県との県境に位置する西会津町。町のおよそ84%を山林が占め、飯豊連峰をはじめとする豊かな山々が、暮らしに恵みと彩りをもたらしています。

西会津町公式HP

西会津町キャラクター
こゆりちゃん

人口

5,841人

※令和4年2月1日現在

町章

まちの木・花

桐

おとめゆり

面積・森林面積

東西 17.55km
南北 34.50km

面積
298.18km²
うち84%が山林

各種アクセス

電車・バスでお越しの方

- 東京駅 —東北新幹線 1時間20分→ 郡山駅 —JR磐越西線 1時間20分→ 会津若松駅 —JR磐越西線 50分→ 西会津町(野沢駅)
- 仙台駅 —東北新幹線 40分→ 郡山駅 —JR磐越西線 1時間20分→ 会津若松駅 —JR磐越西線 50分→ 西会津町(野沢駅)
- 新宿駅 —高速バス 4時間30分→ 会津若松駅 —JR磐越西線 50分→ 西会津町(野沢駅)
- 新潟駅 —JR信越本線 20分→ 新津駅 —JR磐越西線 2時間→ 西会津町(野沢駅)

お車でお越しの方

- 東京 —東北自動車道 3時間→ 郡山JCT —磐越自動車道 30分→ 会津若松 —磐越自動車道 20分→ 西会津IC
- 仙台 —東北自動車道 1時間30分→ 郡山JCT —磐越自動車道 30分→ 会津若松 —磐越自動車道 20分→ 西会津IC
- 新潟 —磐越自動車道 1時間→ 西会津IC

飛行機でお越しの方

- 札幌(新千歳) —福島空港 タクシーバス 40分→ 郡山駅 —JR磐越西線 2時間10分→ 西会津(野沢駅)
- 大阪(伊丹) —福島空港 タクシーバス 40分→ 郡山駅 —JR磐越西線 2時間10分→ 西会津(野沢駅)
- 新潟空港 —磐越自動車道 1時間20分→ 西会津(野沢駅)

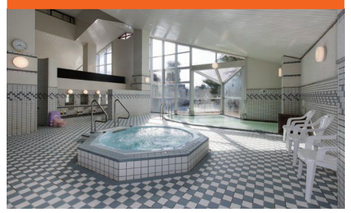
観てふれてたのしむ西会津

西会津に訪れた際は、足を運んでほしい観光施設。この町の歴史文化を知ったり、買い物を楽しんだり、温泉でほっと一息ついたり、過ごし方いろいろ!

道の駅にしあいづ

西会津町の特産品やお土産品などが揃う。西会津グルメが味わえるレストランも併設しています。

ロータスイン



温泉付き宿泊施設。身体の芯まであたたまる温泉とサウナは、町民からも人気。日帰り利用もOKです。

ふるさと自慢館

ふるくからある蔵を改築してオープンした、西会津町の歴史や文化について展示している資料館。

食べておいしい西会津

町民にも人気の西会津グルメをご紹介。心もお腹も大満足の、西会津の食をぜひご賞味あれ!

十割そば

西会津は、そばの生産も盛ん。地元でとれたそば粉を使った風味豊かな手打ちそばが町のあちこちで味わえます。

馬刺し

「日本三大馬刺し」の一つといわれる会津馬刺し。町内の食堂では、甘辛い自家製ダレと一緒にいただきます。

味噌ラーメン

西会津といえば、味噌ラーメンが有名。甘くてコクのあるスープが人気で、わざわざ町外から足を運ぶ常連客も。

おうちで味わう西会津

お土産にも人気!西会津の気候風土を生かした特産品は「道の駅にしあいづ」で手に取れます。西会津を訪れた思い出に、ぜひどうぞ。

桐製品

西会津町は、会津特産の桐工芸品の主産地。なかでも伝統の技が息づく桐下駄は、西会津町を代表する特産品です。

ミネラル野菜

町内の契約農家によって、ミネラル分をバランス良く含んだ土壌で栽培した健康野菜。みずみずしいおいしさで人気です。

しいたけ・きくらげ

西会津で栽培されるしいたけは、大ぶりで肉厚なのが特徴。全国的に珍しい生きくらげも生産しています。

芸術・アートが盛んな町

フルクテアタラシイ山の暮らしを創造するためのクリエイティブセンター「西会津国際芸術村」。ここから、イベントや滞在制作をはじめとしたアートの動きが活発に展開されています。

西会津国際芸術村で行っているアートイベント

公募展

毎年、西会津国際芸術村で開催している「公募展」。青少年の部、一般の部、それぞれ全国から作品が寄せられています。公募展期間中は館内に100点以上の作品がずらりと並び、多くの鑑賞者が訪れます。

草木をまとって山のかみさま

町内で摘み取った草を身にまとい、山のかみさまになりきってみよう!というアートプログラム。毎年、大山祇神社の祭礼期間中に神楽殿でその姿を披露しています。これを目当てに町外から参加者や見学者が訪れるほど、町の新しいイベントとして注目を集めています。

アーティストインレジデンス

アーティスト、デザイナー、ミュージシャン、作家、建築家、料理家などあらゆるジャンルのクリエイターを対象に、町内において中長期的に滞在制作できる環境を提供しています。

ディレクターの声

西会津国際芸術村ディレクター　**矢部佳宏**さん

アートは町にいい変化を与えるきっかけになると考えています。「何もない」と思われがちな田舎でも、アートの視点から捉えると風土や文化などさまざまな魅力がある。そこから生まれた滞在アーティストの作品を通して、地元の人たちが新しい視点で西会津の魅力を捉えられるようになることもあります。私はそうしたアートから広がる町の可能性に期待しています。

あらゆる分野でデジタル変革

西会津町では、2021 年 3 月に「西会津町デジタル戦略」を策定し、デジタル技術を活用した地域の課題解決や行政サービスの向上、移住促進などに取り組んでいます。

ICT 教育

西会津小学校・中学校の全生徒に配布したタブレット端末や学習アプリケーションなど、デジタル技術を活用しICT教育を展開。児童生徒一人ひとりに合わせた能動的な学習を後押ししています。

デジタル教室

デジタルに馴染みのない高齢者を対象に、自治区の集会所にてタブレットやスマートフォンの使い方についての「デジタル教室」を開催。デジタルに関する困りごとに応えるデジタルよろず相談室も定期的に行っています。

情報発信

令和4年1月から町LINE公式アカウントの運用を開始。SNSやWebサイトなどの情報ツールと連携し、町や地域の情報、取り組みなどを町内外に発信します。表紙のQRコードからお友達申請が可能です。

企業共創

「西会津町デジタル戦略」の推進にあたって、民間企業との連携を積極的に行っています。これまでに株式会社NTTドコモをはじめとするIT企業などと連携協定を結んでいます。

最高デジタル責任者の声

西会津町最高デジタル責任者　**藤井靖史**さん

都会に出なくても、西会津町で働き、暮らし、世界とつながる環境をつくる。それが「デジタル技術」を活用することで可能になると考えています。特に力を入れていきたいのは「しごとの DX」。仕事のデジタル化が進むことで雇用の選択肢が広がり、移住促進にもつながります。今の子どもたちが大人になっても、この町で暮らし続けていける未来をつくっていきたいです。

日本トップクラスの高品質・西会津米

西会津町の主要産業のひとつ、農業。昼夜の寒暖差が大きく、肥沃な土壌と豊かな水源から育まれる西会津米は、日本トップクラスの食味を誇るお米として全国から人気を集めています。

魅力いろいろ西会津米

ナチュラルソープ

西会津米の米ぬかと、会津産クロモジオイルを使用したせっけん。100%自然由来成分でできているから、お肌が敏感な方にもおすすめ。

西会津アイス

西会津米でつくられた甘酒使用のアイス。ココナッツミルクの濃厚な味わいのなかに感じる甘酒のやさしさに、心もとろけます。

西会津米

「日本の田舎、西会津町。」のオリジナルパッケージを使用した西会津米は、道の駅「よりっせ」をはじめ、西会津町のふるさと応援寄附金の返礼品にもなっています。

農家人口（令和２年）

15歳未満	／
15～19歳	31人
20～29歳	48人
30～39歳	62人
40～49歳	95人
50～59歳	147人
60歳以上	700人
総数	1,083人

出典：2020年農林業センサス

水稲の作付面積と収穫量（令和２年）

収穫量 3,320t

作付面積 612ha

出典：令和2年産作況調査

ふるさと応援寄附金額

平成30年度 1,011万円

令和元年度 2,670万円

令和2年度 1億6,160万円

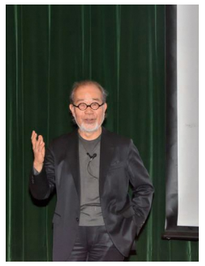
出典：町民税務課調べ

生産者の声

牛尾ライスセンター理事「ホタルの里米」 目黒輝夫さん

わたしが手がける「ホタルの里米」は、減農薬・減化学肥料栽培により、自然にも、食べる人の健康にも配慮したお米。先人たちが守り継いできた土地と、ホタルをはじめ、さまざまな動植物が共存する豊かな生態系が、お米をおいしく、たくましく育みます。

西会津米について



健康づくり特別講演会

鎌田實先生を講師に招き、2019年に特別講演会を実施。会場には450人もの町民が集まり、鎌田先生の健康法や健康に対する考え方などを聞きながら、人生百年時代を生きるため、健康づくりに対する意識を高めました。

ワイワイかたろう会

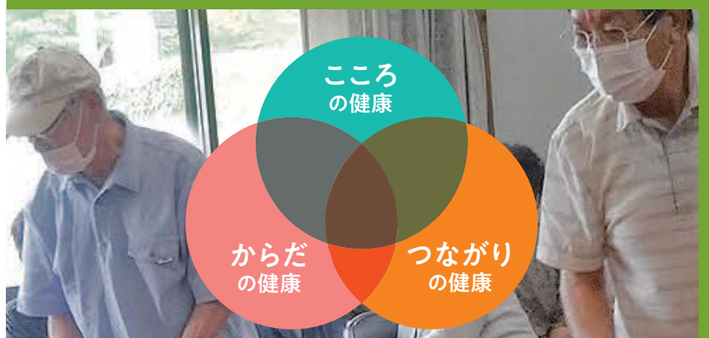
鎌田實先生が所長を務める「一般社団法人地域包括ケア研究所」の講師と、集落に住む高齢者の皆さんが健康づくり座談会「ワイワイかたろう会」を実施。住民主体のイベントであるのが特徴です。

オモシロ座談会

「西会津町健康増進計画（第２期）」の策定や実施にあたって、町民13名による策定委員会を発足。町民主体で健康づくりを推進するにはどうすればいいかを話し合い、より良い実行プランに活かしています。

西会津町の健康づくりの取り組み

西会津町では平成5年から「百歳への挑戦」をスローガンに掲げ、町一体となって健康づくりに取り組んできました。時代が進むにつれて社会状況や生活習慣などが変化し、現在はただ長生きを目指すだけではない新たな健康づくりに取り組んでいます。それが『幸せになる健康づくり～「百歳への挑戦」のその先へ～』です。長野県を全国トップの健康長寿に導いた、諏訪中央病院名誉院長・作家の鎌田實先生の指導のもと、「こころの健康」「からだの健康」「つながりの健康」という3つの健康による『さすけねぇわ（輪）』の健康づくりを推進し、人生百年時代を自分らしく暮らせる町を目指しています。

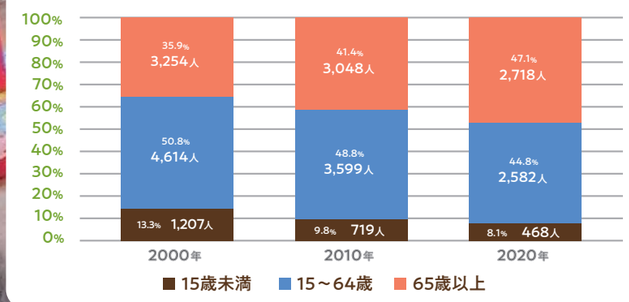


さすけねぇわ（輪）

幸せになる健康づくり
～「百歳への挑戦」のその先へ～

西会津町では令和2年に策定された「西会津町健康増進計画（第2期）」をもとに、生涯を通じた健康づくり・健康寿命の延伸を図る取り組みを展開しています。

年齢別人口比率（3区分）の推移 ※2020年は年齢不詳を含まない人数



出典：国勢調査

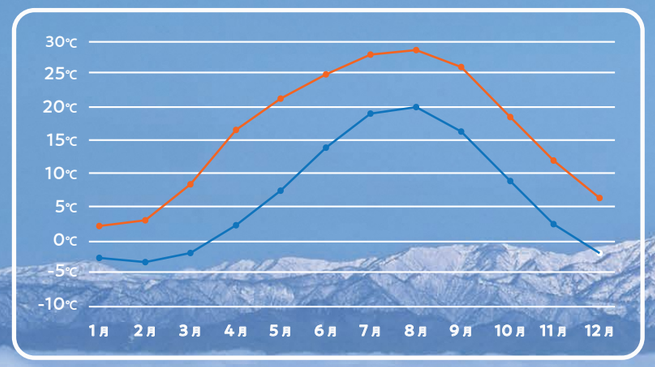
100歳以上の人口（令和4月1日1日時点）

100歳以上	11名
最高齢	105歳

出典：福祉介護課調べ

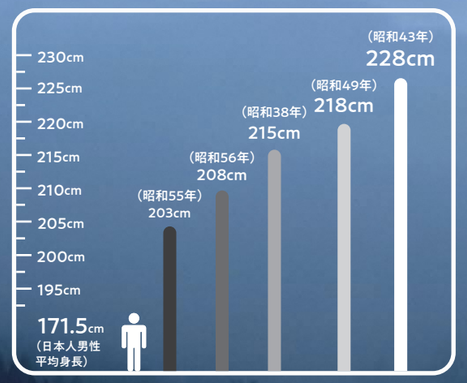
寒暖差（月ごとの最高・最低気温の平年値）

出典：気象庁



最深積雪量 TOP5

出典：建設水道課調べ



降雪期間（月ごとの降雪量）※平成22年～令和元年の平均値

出典：気象庁

厳しくも豊かな自然が育む暮らしの文化

夏は暑く、冬は見上げるほどの高さまで雪が降り積もる西会津町。その厳しい環境は、時に日常生活に支障をきたす課題点になりながらも、自然と共存するなかでわたしたちの暮らしに欠かせない知恵が育まれてきました。

日本有数の豪雪地帯

西会津町は特別豪雪地帯に指定され、冬から春先にかけて積雪が続きます。その雪は、豊かな水源のひとつとしての役割を果たす一方で、豪雪による被害もみられます。町では流雪溝や消融雪設備の整備、雪処理担い手の確保、除雪が困難な高齢者への支援など、さまざまな対策を講じています。また毎年2月に開催される「西会津雪国まつり」や、雪室貯蔵施設の活用など、産業や観光に雪を活かす取り組みも行われています。

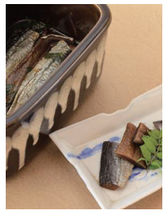
保存がきく郷土料理

肥沃な土地と豊かな水に恵まれ、昼夜の寒暖差が大きいことから良質な米・野菜・きのこなどの農林産物が収穫できる西会津町。その一方で、内陸部に位置するこの町は海から遠く、昔は塩や海産物を入手するのが困難で、棒たら・身欠きにしんなどの乾物が、貴重なたんぱく源として扱われていました。このような環境から、保存のきく郷土料理が次々に生まれ、にしんの山椒漬け、棒たら煮、ホタテの貝柱から出汁をとってつくる「こづゆ」、山菜料理などは、今も家庭の食卓にならびます。

山菜料理

こづゆ

棒たら煮



にしんの山椒漬け

会津三大宿場町のひとつ

西会津町は、越後へ続く会津の玄関口であり、多くの人や物が行き交う拠点として栄えてきました。特に「野沢宿」は、江戸時代に整備された越後街道の三大宿場町のひとつに数えられ、当時の会津藩の行政・経済の要衝であったことがうかがえます。

野沢祭礼

野沢郵便局

野沢駅

野沢町役場

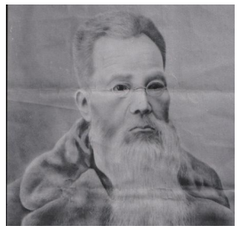
会津の発展を支えた要衝

新潟県と福島県の県境に位置し、ふるくから越後街道の宿場町として栄えた会津の西の玄関口・西会津町。人や物が行き交う政治・経済の要衝として、発展を遂げてきました。

時代を牽引した偉人たち

西会津町は別名「学者の西会津」とも呼ばれ、明治以降に全国的な活躍を遂げた偉人を輩出してきました。江戸時代の幕末、会津藩校日新館に学んだ渡部思斎が、自宅がある野沢宿に私塾「研幾堂(けんきどう)」を設立。野口英世の手を手術した渡部鼎、アダム・スミスの『富国論』を翻訳した経済学者である石川暎作、エール大学で法律を学んだ野澤雞一、自由民権活動家の山口千代作、小島忠八などの偉人が、この塾から次々に誕生しています。

渡部 思斎（わたなべ しさい）


山口 千代作（やまぐち ちよさく）

野澤 雞一（のざわ けいいち）

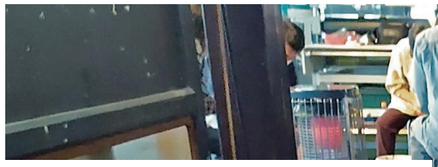
小島 忠八（こじま ちゅうはち）

渡部 鼎（わたなべ かなえ）

石川 暎作（いしかわ えいさく）

会津張り子「赤べこ」

江戸時代から明治にかけて、全国各地でつくられた郷土玩具。会津を代表する郷土玩具「赤べこ」は、ふるくから厄除けのお守りや縁起物として、会津の人々に愛されてきました。そんな赤べこ生産のシェアをおよそ7割も占める工房「野沢民芸品製作企業組合」が、西会津町にあります。50年以上にわたり、会津張り子を中心に郷土玩具や民芸品をつくり続けている野沢民芸。心のこもった作品は、道の駅「よりっせ」をはじめ、お土産ショップで購入できます。



西会津の伝統産業・出ヶ原和紙

会津藩の御用紙として使われていた歴史がある「出ヶ原(いずがはら)紙」。その名は伊豆の国から来た者が紙漉きを伝えた事に由来すると言われています。かつての西会津町では、豊富な清水を背景に、良質な紙が町内各地で漉かれ、近隣では「出ヶ原」の名が紙の代名詞となるほど有名な和紙産地でした。その生産は昭和中期に一度途絶えますが、その後再興の動きがおこり、現在は地域おこし協力隊や地元の人たちによって、出ヶ原和紙の文化を繋ぎ現代に生かすため、さまざまな活動が行われています。工房見学や紙漉き体験なども随時開催しています。

縄文時代から栄える文化

西会津町の歴史は、およそ1万5000年前にまでさかのぼることができます。町のいたる所で縄文遺跡が発掘され、また会津の霊地としてふるくから信仰を集めてきた歴史があります。

日本の最先端をいく縄文文化

町内で確認されている最も古い遺跡「山本遺跡」は、およそ1万5000年前の旧石器時代のもの。ナイフ形石器・彫刻刀形石器・打面再生剥離片・石刃などが出土しています。また、西会津町を含む会津西部は、東北・北陸・関東の文化が混じり合う地域であり、独特の文化が発達しました。なかでも、芝草・小屋田遺跡、上小島遺跡からは火炎系土器と王冠型土器が出土されており、「会津タイプ」と呼ばれています。これらの土器は、縄文時代から弥生時代にかけて最も創造性と多様性が見られる土器として注目されており、当時の西会津町の人々は日本の最先端の文化を担っていたとも言えるでしょう。

▲山本遺跡出土品

▼芝草・小屋田遺跡出土品（撮影ー小川忠博）

西会津町の豊かな自然を護る「山の神様」

土地のおよそ84%を山林が占め、豊かな山々が広がる西会津町。山の神様として信仰を集める「大山祇神社」は、「一生に一度の願いは3年つづけてお参りすれば、 なじょな(どんな)願いもききなさる(かなえてくれる)」と言われ、年間30万人もの参拝者が訪れています。特に、毎年6月に開催される「大山まつり」は多くの観光客でにぎわい、真冬の寒い時期に、御本社を水源とする中野川に晒した風味豊かな寒晒そばが味わえます。また、御本社まで続く4kmほどの参道は「ふくしま遊歩道50選」に登録されており、2つの滝や樹齢400年を超える杉並木も。自然の中でリフレッシュできるトレッキングルートとして人気を集めています。

会津仏都の祖・徳一大師が創建した如法寺

西会津町を代表する観光地のひとつ、鳥追観音如法寺。平安初期に、会津に仏教を布教した徳一大師が会津の西方浄土として創建したと伝えられています。鳥追観音は、「会津ころり三観音」のひとつ、また「会津三十三観音番外別格」の結願所として、子授け・安産・子育て・厄除け・健康・長寿などのご利益があるとされ、多くの人の信仰を集めています。訪れた際には、観光客から人気高い住職による「隠れ三猿」のいわれを聞くのもおすすめです。

厳しくも豊かな自然環境とともに、文化を育んできた西会津町の人々。

その営みははるか昔、縄文時代から発達し、今にもその知恵は受け継がれています。

山々に囲まれた雪国ならではの保存食文化や、山岳信仰。

ふるくからあるこの町の資源や価値を、わたしたちの手で次代につなげていきます。

日本の田舎、西会津町。
Traditional countryside in Japan, NISHI-AIZU.

発行元 ／ 西会津町 企画情報課
〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢字下小屋上乙 3308 番地　TEL：0241-45-4536　FAX：0241-45-4199

西会津町　町勢要覧